

# 投稿

## 普代村を通った柳田国男

(その2)

東京都 医師 熊谷 文弥 (鳥居出身・73歳)



私は普代村のふれあい交流センター管理員金子功氏からご要望のあった民俗学者柳田国男先生が普代村を通ったことについて関係資料を知人を通じて慶応義塾大学図書館から入手し、その概要を広報ふだい平成十四年八月号に報告した。

その後、広報をお読みになった普代村郷土史編集委員長久慈市の大森竹之助先生から柳田国男全集で「普代」の名前の出ている箇所のご教示があった。何事も最初の調査者は熱中のみならず見逃し、後の読者は冷静である。

三巻六七二頁に「榎の林のこと」(フリガナ筆者)とあり次のような記述



ふれあい交流センター図書室蔵書  
人名辞典より

資料は柳田国男全集、全二十八巻中の第三巻六七六頁(地図)から七一九頁までであり、地図上には柳田先生の歩いた道が太線になっていてこれには普代がはつきり出ていたが入手資料の本文中には普代がなかった。

ただ、普代地方でもうたう盆歌「ナナトヤレ」の解説があったのでお盆に間に合うよう広報ふだい八月号に掲載して頂き報告した。  
同時に入手資料中の本文には「普代」の名が見当たらないことも記述した。

がある。「話はやや北方に偏するけれども是非とも言(行?)って見たいのは榎の林のことである。」  
中略  
ところが岩手県では下閉伊郡の北端に、普代の官有林というのが海に臨む段丘の上に在って、広大な樹林であった。  
六、七年前に自分が通つ

**おわびと訂正**  
「広報ふだい」8月号に寄稿いただきました「普代村を通った柳田国男」の文中上段右から三行目「民俗学者」と表記するところが「民族学者」と誤って表記。おわびして訂正します。

柳田国男(1875~1962) 兵庫県出身。官吏生活のかたわら民間伝承に関心をいだき、『後狩詞記』『遠野物語』などを発表して日本民俗学を確立。貴族院書記官長を退官後、民俗学に専念、『先祖の話』『海上の道』など多数の著作をし、研究者を育成した。写真提供・遠野市立博物館。

私も、私の知人も見逃していたわけであり「普代」の二文字があったものを

たころ、世間の景気に誘われて売り払おうとして居たから、是も今は杉扁柏に変わったかも知らぬ」  
このあとの記述は青森県下北半島の東通村へ一氣に飛んでいる。  
「普代」についての記述はただこれだけである。  
私が慶応義塾大学図書館から入手した資料よりも前の方の頁に「普代」の二文字があったものを

### 第14回 ふるさと普代会の集い

日時 10月27日(日) 午前11時受付、11時30分開会  
場所 九段会館 (東京都千代田区)

※今年で14回目を迎えた「東京ふるさと普代会」。参加者が年々減り続けています。畠山茂樹会長が会員の皆様へ、「広報ふだい10月号」で「ふるさと普代会によせて」メッセージを発信します。ご期待ください。会員の皆様、一年に1度の「なつかしい顔合わせ」です。「こどもいぐびゃあねえ〜」と誘いあってぜひご参加ください!

